

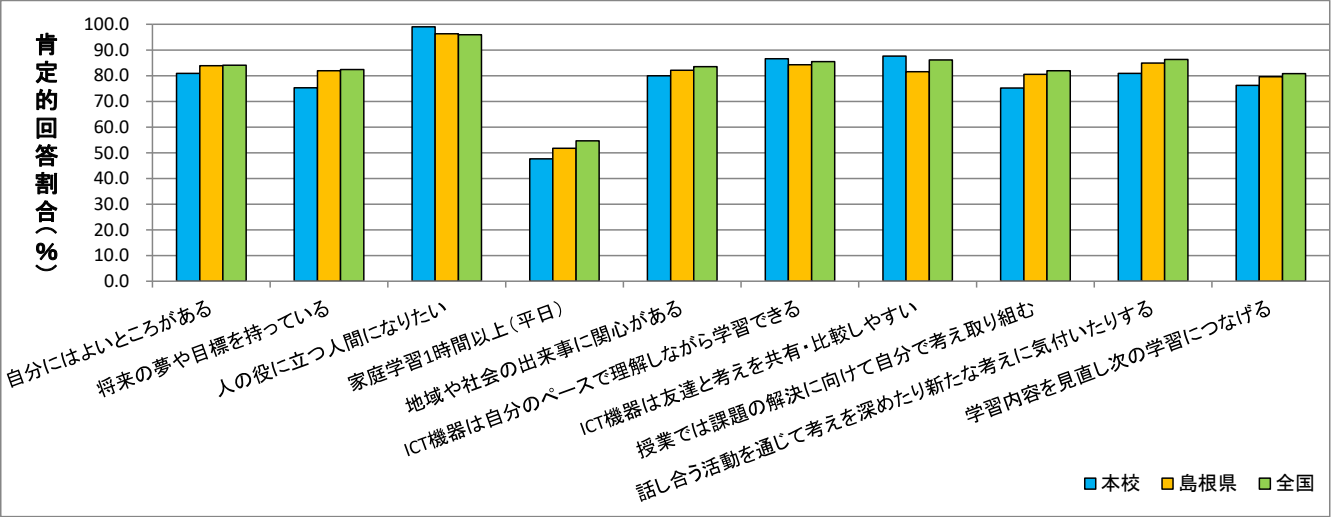
(1)学力調査結果から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策(・)
国語	○メモの内容など、短い文章を正確に読み取ることができる。 ○選択問題は、書かれていることを比べ、題意に沿った回答をすることができる。 ●自分の考えを条件に合わせて最後まで書くことが難しい。 ●長文を読み切り、答えに導くような手がかりを見つけることが難しい。	・百字程度の短作文を書く練習を継続的に行う。慣れてきたら、条件を付け加えた課題を提示し、書く力をつける。 ・朝学習で、短い物語文を読む習慣をつける。 (司書教諭・学校司書と連携)
算数	○□を使った式には慣れており、解くことができる。 ○基礎的な計算や、数字のみを書く問題はできている。 ●問題文が長文になると正答率が下がる。文章の中から出題者が求めていることを見つけることが難しい。 ●言葉と式で表そうと書かれているものの、式のみしか書くことができない児童が多い。	・どの単元の学習でも、図・絵・言葉・式等多様な方法で自分の考え方を表し伝えることを繰り返す。 ・市教委作成の発展問題に取り組む。数か月後同じ問題に取り組み、自分の伸びや課題について検証する。 ・ICT端末を使った他者参照やweb資料、図書資料等を使って、複数情報から必要な情報を読み取り考える力をつける。

(2)質問紙調査から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策(・)
質問紙	○ICT機器を使って学習をすることを好む児童が多い。 ○学級会などで話し合い、解決方法を決める活動が好きと答えた児童が多い一方、学習の話し合いを好む割合は少ない。 ●家庭学習に取り組む時間が少ない児童の割合が高い。	・ICT端末を使った交流も含め、グループ活動を積極的に取り入れ、学び合うことの良さを実感できるようにする。 ・テストに向けて学習計画を立てたり、自分の家庭学習について振り返る機会を定期的にとる。

(3)質問紙調査の結果より(学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています。)



(4)学力・学習状況調査結果チャート(破線は全国平均)



(5)その他、今後特に力を入れて取り組むこと

・全国学力調査の結果を踏まえ、各学年で重点的につけたい力を学年部ごとに設定して、全職員で共有し、学年の実態に応じて具体的実践を行う。年度末にはどう変化したのかを振り返る機会をとり、次年度に引き継ぐようにする。

重点的につけたい力
低学年 ノート、ワークシートを中心にした話し合い活動
中学年 ノート、ICTを活用した他者参照
高学年 ノート、ICTを活用し、子どもが表現の仕方を工夫して思考・判断・表現する活動を選択する。

【受検者数】
105 名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示。